



特集

— 持続可能な岩手農業の確立 — 純情産地の確立

岩手県本部3か年計画(平成28~30年度)
初年度経過報告



副本部長
照井 勝也



季節のエッセー いわての野草

文・澤口 たまみ
絵・永澤 美貴子

「ナズナ」

(アブラナ科)
別名/ペンペン草

「ペンペン草も生えない」とは、
荒れ果てた様子を表す言葉。
校庭の片すみなどで、ヒョロヒョロと花茎を
伸ばしていたナズナの姿を思い出す。
子どもたちは、学校帰りにこの草を摘み、
三角形の実をそと引っぱって「ささら」のようにし、
耳もとでクルクルと回した。
実は互いにぶつかって、「ジャラジャラ」と鳴り、
私にはそれが、舞子さんがかんざしを揺らしながら
歩く音のように聞こえたものである。
ちなみにペンペン草とは、その実が三味線のバチに
似ているところから、ついた名前だという。
これをちよつと間違つて、頭のそばでクルクル回すと、
さあ、たいへん。髪の毛がからまって、痛いこと。
そのため、子どもたちはこの草を
「バリカン」とも呼んだ。
春の七草の一つ。昔は実や葉を食用にした。

参考資料:澤口たまみ著『岩手の野草百科』(岩手日報社発行)より

純情産地発 クララー **KLARA** vol.811 2017.2

みんなの力で!



がんばろう!岩手
純情産地いわて

contents

季節のエッセー いわての野草	02	みんなの分教場	07
特集 純情産地の確立	03	報告! 出向く活動班	08
消費地だより	06	純情人	09
JAタウン いわて純情館	06	純情むすめ活動記	09
		ニュースワイドアングル	10

タイトルのKlara (クララー) は、宮沢賢治の手帳にしている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

はじめに

昨年は、4月の熊本地震に始まり各地で群発地震が相次ぐなど、先の大震災を経験している我々にとっても改めて自然災害の怖さを思い出した1年でありました。また、本県においても、8月には3つの台風が通過し、特に観測史上初めて本県の沿岸地域に上陸した台風10号は、記録的な大雨や暴風とともに人的被害や農畜産物の被害など甚大な被害をもたらしました。改めて被害に遭われたJAならびに組合員の皆様にはお見舞い申し上げますとともに、本会としても1日も早い産地の復旧復興支援に取り組んで参る所存です。

さて、第44回JA岩手県大会のテーマである「農家組合員の所得増大と地域の活性化に全力を尽くす」を基本とした今次3か年計画ですが、この4月から2年目を迎えるにあたり、初年度における部門別の取り組み成果と進捗状況をご報告させていただきます。

1. 部門別3か年計画 初年度取り組み内容（◇は基本方針）

《営農対策部門》

◇生産者手取り最大化に向けた取り組みの実践

反収の向上とコスト低減の取り組みの一環として、モデル生産者への訪問活動を実施しております。JA新いわて管内は延べ79回、JAいわて中央管内は延べ57回（合計136回）JAとの同行訪問を実施し、将来的な取組結果の水平展開に向けて取り組んでおります。

◇反収確保と流通コストの低減

「園芸産地改革ネットワーク部会」を設置し、課題解決に向けた検討会・研修会を各品目ごとに開催しました。（計28回）

流通面では、パレットごとの標準積載量を定め、輸送効率の向上や運賃コストの抑制に取り組んでおります。

また、資材においては、各種段ボールの規格統一や材質見直しなど、出荷用資材の最適化をすすめています。

《畜産酪農部門》

◇系統組織一丸となった指導体制のスキルアップと生産性の向上

若手後継者がいる酪農家への定期巡回指導を農協担当者の同行により実施しております。（毎月15戸程度）和牛繁殖においては、規模拡大農家に対しJA全農北日本くみあい肥料㈱、関係機関と連携し、飼養管理指導により生産性向上を図っております。（上期35戸）また、乳牛への受精卵移植を農協移植師とともに実施し、酪農家の所得向上と移植師の技術力向上を図っているほか、繁殖和牛から受精卵を採取し（毎月10頭程度）、全農で受精卵を買い取るにより繁殖農家の所得向上の推進を図っております。（毎月100個程度）

◇系統組織の機能を活かした和牛の県内一貫生産体系確立による農家経営基盤の安定化

人工授精では受胎しない酪農家の不受胎牛を借り腹とし、和牛受精卵を受胎させ産子を早期に引き取り、乳牛の淘汰防止と哺育の省力化を図っております。

◇TAC活動・出向く活動基盤の確立と多様化する担い手ニーズへの対応強化

JATACのスキルアップを目的としたTACアグリビジネススクール（6月～3月、全10回）への参加を促進、TACスキルアップ研修会も2回開催しております。

◇食の安全・安心への取組強化

県内の小学校等での学校給食への県内産食材提供などの助成を実施し、「食育」も含めた食の安全・安心に取り組んでおります。

《米穀部門》

◇確実な販売実践に向けたマーケットインへの事業転換

中食・外食などの業務用需要が伸長する状況をふまえ、実需者と産地のマッチング機能強化をすすめることで「見える化」（結びつき）を促進しております。

「見える化70%」、「事前契約7万2000トン」を数値目標として取り組みを実施し、目標を達成いたしました。

◇平成30年に向けて用途別需要に見合った生産・集荷体制の構築

生産数量目標の配分廃止による、産地の拡充や、需給に応じた生産・販売をするため、前項同様、「見える化」や「事前契約」等の取り組みを行っております。

◇県オリジナル品種のブランド化、県産穀物（米・麦・大豆）の生産ビジョン策定と作付誘導

「銀河のしずく」がデビューを果たし、穀物検定協会 の食味試験で特Aを獲得しましたが、28年産は主に県

（移植350頭、引取80頭）

改良センター産子を中心に肥育素牛として県内に供給し、肥育農家の生産コスト低減に向けた取り組みを実施しております。（幹旋販売供給90頭、対象月齢概ね8ヶ月以下、幹旋販売価格…借り腹料+25万円、幹旋販売対象者…輸出登録可能な生産者）

※借り腹料は出生前月の中央市場初生牛交雑種の平均価格

《資材部門》

◇肥料農業事業における農業者の所得増大の取り組み、事業競争率の強化

物流コストの削減および大型規格のメリットを価格に最大限反映させた「農業担い手直送規格」を推進すること生産資材費の低減をすすめております。

成果として、「BB肥料大規模農家対策」は7JA、「系統農業担い手生産組織対策」は6JA、「農業担い手直送規格」は4JAで取り組みました。特に農家推進に積極的に取り組み、所得増大をはかるため、12月現在1424回の農家訪問を実施しました。

◇ガスを柱とした家庭用エネルギーの推進体制の構築

組合員宅を定期的に訪問し、保安点検を実施しております。

12月現在7JAで保安点検を5808件、器具の修理点検および保安確認を2万2237件実施しました。

《農機部門》

◇トータルコスト低減と担い手支援

経営規模拡大に対応した農業機械や、野菜の生産振

内での販売が中心となりました。29年産では大きく生産量が増加しますので、全国での認知度向上に向け、計画策定を進めております。

また、今年の秋に市場デビューを果たす「金色の風」についても、最高級米として食味・食感・特性の違いをアピールし、マーケットの評価を獲得してまいります。

《園芸部門》

◇実需者ニーズにもとづく生産基盤の強化

園芸大型経営体の育成を目的に、経営規模拡大提案として、対象生産者と面談しながらニーズにもとづく、新規提案、作付拡大提案を行いました。（65回）

◇「オールいわて」としての販売戦略構築による販売力の強化

首都圏にて、岩手県知事、JA岩手県五連会長、各JA組合長による野菜・りんごのトップセールスを開催し、PRしました。

また、生産者収益の安定化に向けた、加工・業務用野菜、生産者グループ販売、りんご新品種など買取り販売の拡大を行っております。（12月末476・1百万円…計画比88%）

さらに、加工・業務用野菜専任担当者を設置し、加工業務への対応を強化するとともに農機レンタル事業を開始し、生産拡大を図っております。（12月末600百万円…計画比109%）

今後は、紅ロマン・紅いわて・冬恋等のブランド化定着、相対販売や産地直送販売などの販売体制の拡充を積極的に取り組んでまいります。

興と連動した機械提案を展示会や実演会を開催。また、園芸部と連携した野菜用機械のレンタルを始めたほか、発足2年目を迎えた基幹整備センターを活用し、農機の長期利用などの促進を取りすすめております。

◇事業環境に対応した人材育成

JAグループの農機検定の取得促進（1回）、中古農機の適正な査定のための中古査定士資格の取得促進（2回）を行いました。

◇業運営基盤の強化

全農新3づくり運動（①人づくり、②仕組みづくり、③結果づくり）に取り組んでおります。具体的には、中堅職員によるプロジェクトを組成し、実演会の企画を行い、総合的なレベルアップをはかりました。

おわりに

アメリカのTPP離脱など目まぐるしく内外情勢は変化しておりますが、今我々が果たすべき役割は、「農家組合員の所得増大」ならびに「農業生産の拡大」に向けた最重点施策を基本方針に、「『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」や「農業競争力強化プログラム」の実践によりこれらの取り組みを深化・拡充し、明確な結果を会員JA・組合員の皆様に速やかにお示しすることです。

自分たちの取り組みを常に検証し、「今、何が求められているのか」を第一に考え、皆様の声を拝聴しながら役職員一体となって取り組んでまいりますので引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



園芸部 生産販売課
技術主管
菊池利行

みんなの分教場

新しい野菜生産技術

～先端プロの現場から～



ミニトマトのソバージュ栽培
品種はヘタのない「ロツナゴリタン」



木骨ハウス
耐候性があり、採光性も改善されている



育苗ハウスでのパプリカの養液栽培
ハウスは6月から11月まで使用する

ソバージュ(野性的)栽培とは、露地ミニトマトの省力栽培法として秋田県横手市実験農場で開発された栽培方法です。
主枝3本仕立とし、地際から30cm程度までは脇芽をとりませんが、その後は原則放任

1. トマトのソバージュ栽培®

※ソバージュ栽培®はイオデータエシエンス社の登録商標です

岩手県農業研究センターでは、平成23年3月11日の「東日本大震災」からの復興のため「食糧生産地域再生のための先端技術展開事業(通称 先端プロ)」を取り入れ、国や企業、大学等と連携して陸前高田市を中心とした、沿岸南部地域で新しい形の農業システムの研究開発を行っています。

試験は4年前から始まり、今年(平成29年度)が最終年となっていることから、その成果が期待されています。

今回は、その一端について研究成果の中から紹介したいと思います。

2. 木骨ハウスの特性

木骨ハウスは、気仙地方の地域資源である間伐材の有効利用や高付加価値化を目的として開発されました。耐用年数は8年になります。

このハウスは高軒高なので、果実類の周年栽培が可能になります。耐風性、耐雪性などの耐候性があり、軽量鉄骨ハウスと比較して同等以上の強度、採光性を持っています。

栽培となります。栽植密度は10㎡当たり550株とハウス栽培の4分の1程度ですが、10㎡当たりの良果収量は3〜4㎡程度が期待されます。

従来は、きゅうりのようにアーチ栽培を行っていましたが、さやえんどうのように直立したネットに誘引する方法に改良されています。直立誘引することで収量の増加、作業姿勢の改善による軽労化や収穫作業時間の短縮が図られています。

3. その他の主な試験

そのほかには「水稻育苗施設を有効活用したパプリカ養液栽培」、「簡易なかん水装置による夏秋きゅうりのかん水同時施肥技術」、「温暖な冬春気候を活かした冬春キャベツの栽培」、「トマトハウスの複合環境制御」など多くの現場に密着した試験が実施されています。これらの技術を活用し、被災地域の園芸復興を一刻も早く図りたいものです。



最優秀賞を受賞した竹田さんの枝肉価格確定時の様子

第27回「いわて牛」枝肉共励会

1月17日、東京食肉市場において、第27回「いわて牛」枝肉共励会が開催されました。この共励会は、産地関係者および首都圏買参者との情報交換を通じて「いわて牛」の評価向上を図るとともに、いわて牛普及推進協議会員の相互肥育技術研鑽による生産意欲の高揚を図ることを目的しており、今回は雌27頭、去勢33頭、計60頭の出品で開催。最優秀賞はJA新いわての竹田直也さんが受賞され、3,222円/kg(589kg)の単価がつきました。

また、前日には市場関係者・取扱指定店・生産者・農協職員約250名を参集し、いわて牛の集いが開催され、純情産地いわて宣伝部長の「のん」さんも駆けつけるなど、大いに盛り上がりました。共励会は体型、造りが良い牛も多く、生産者の方々の日々の努力が形となって現れた結果となりました。純情むすめも応援に駆けつけ、当日のセリに花を添えました。平均販売単価は昨年より上がり、非常に高値で取引をしていただきました。市場購買者の方々には「いわて牛」を精一杯応援していただいております。首都圏にも「いわて牛」のファンが沢山いらっしゃいます。畜産情勢は非常に厳しいなかですが、生産者と消費者の懸け橋になるように「純情産地いわて」として安全・安心かつ美味しい「いわて牛」をお客様に届けるため、日々取り組んで参ります。



首都圏でのいわて牛消費拡大を祈願して乾杯しました

今月のリポーター
消費地販売課
高橋 司

第27回「いわて牛」枝肉共励会成績表

販売成績	頭数	平均枝肉重量	平均販売単価	平均販売金額
雌	27頭	462kg	2,660円	1,231,053円
去	33頭	548kg	2,679円	1,469,363円
合計	60頭	509kg	2,670円	1,362,124円

入賞区分	農協名	氏名	性別	枝肉重量	単価	販売金額
最優秀賞	新いわて	竹田 直也	去勢	589kg	3,222円	1,897,758円
優秀賞	岩手ふるさと	(有)千葉畜産	去勢	606kg	3,039円	1,841,634円
	新いわて	武田 敏男	雌	576kg	2,980円	1,716,480円
	いわて平泉	佐々木 信行	去勢	517kg	3,035円	1,569,095円
優良賞	岩手ふるさと	高橋 久典	雌	507kg	3,017円	1,529,619円
	岩手ふるさと	高橋 克彦	雌	423kg	2,897円	1,225,431円
	新いわて	瀧沢 卓	去勢	506kg	2,924円	1,479,544円
	いわて中央	畠山 正宏	去勢	578kg	2,808円	1,623,024円
	いわて花巻	(株)西部開発農産	去勢	561kg	2,940円	1,649,340円

JAタウン いわて純情館

産地直送通販サイト



- ◆めぐ海のおやき 着色料・保存料・防腐剤不使用!
米粉を使用したもちり生地を南部鉄器の鉄板で焼いた手づくりおやきです。陸前高田ならではの素材を使った6種類をご用意。
※6種12個セットは写真のほかに、白あん2個が付きます。

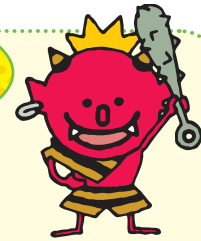
- ◆めぐ海の雁月 郷土料理の雁月は冠婚葬祭には欠かせない一品。蒸しパン風の軽い食感と素朴な味でまた食べたくなるお菓子。

JAタウン「いわて純情館」では純情ブランドを全国の食卓にお届けしています。

いわて純情館



注目の一品!

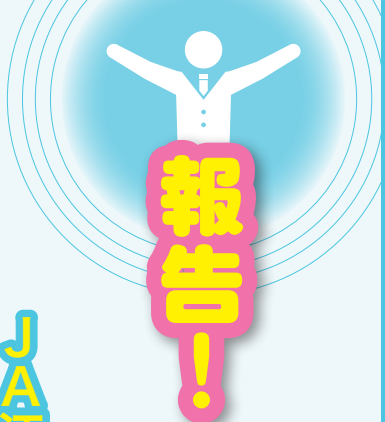


愛情こめて、手作りで。三陸の恵みをふんだんに使ったお母さんの愛情たっぷり手づくりお菓子。

工房めぐ海 おやき6種12個セット ¥3,300
工房めぐ海 おやき5種10個、雁月2種セット ... ¥3,500

毎日のおやつに、贈り物にも。
“工房めぐ海”の美味しいおやきはいかがですか?

“工房めぐ海”は広田半島営農組合女性部の8名で、2010年にスタート。地元産素材使用・添加物ゼロにこだわった手づくりの菓子製造に取り組み、私たちの強い思いと、皆様からの熱烈な声に後押しされながら東日本大震災も乗り越え、力強く活動が続けています。



報告！

出向く
活動班



今回の報告者
担い手サポートセンター
出向く活動班
新沼 真也

J・A江刺の担い手支援活動について

今回はJ・A江刺の担い手支援活動について紹介させていただきます。



J・A江刺担い手連絡協議会による研修会の様子

担い手担当の配置

J・A江刺では、今年度J・Aいわてグループ農業担い手サポートセンターの開設に合わせ、専務付け2名を担い手担当として配置し、同サポートセンターとの連携のもと、担い手対応に取り組んでおります。

J・A江刺担い手連絡協議会の設立

J・A江刺では、農政による各種補助事業の活用や、担い手サポート事業等の各種支援を受ける体制の整備として、新たに「J・A江刺担い手連絡協議会」を設立し、担い手対応の強化に取り組んでおります。

（設立総会：平成28年7月27日、農業法人及び集落営農組織62団体77名、個人担い手70名出席）

出向く担い手リストの作成

J・Aの出向く担い手を明確にするため、営農と金融部門の共通担い手リストを作成し、訪問活動を実施しております。（個人339名、法人等100、計439）

J・Aの部門会議連携会議の実施

5月より毎月1回、営農部門と金融共済

部門の各課リーダーによる合同会議を開催し、担い手支援の情報交換を実施しております。

J・Aと県域担い手サポートセンターとの連携会議

四半期毎にJ・Aと担い手サポートセンターの連携会議を開催し、取組状況の確認と課題整理や今後の対応について協議を行っております。

J・A江刺担い手連絡協議会による研修会の開催

①中山間地域において、急勾配の畦畔除草が年々大きな問題となつて来ている事から、リモコン操作による「スパイダーモア」の草刈り実演研修会が実施され、50度の急勾配の畦畔を楽々と刈り取る光景に参加者は感心していました。問題は1台580万円と高額である事から、導入に対する良い事業が無いとの声がありました。

②本会営農技術課・高橋技術主管を講師に招き、「乳苗移植栽培技術による低コスト栽培」の講習会を開催。稲作の低コスト栽培についての勉強会を実施しました。

③10月31日から開催された「秋田県種苗交換会」の見学会が行われ、協議会員43名が参加しました。

スパイダーモアによる急勾配の草刈り作業



J・A江刺担い手連絡協議会設立総会

以上、J・A江刺の担い手支援活動について報告しました。今後、我々出向く活動班の取り組みが、農家組合員の所得増大と農業生産の拡大に繋がるようサポートして参ります。



2016いわて純情むすめ
中新井田 沙希



純情むすめ 活動記

半年間の純情農園を振り返って



かんかん照りの7月11日。その日は、私にとって人生で初めて農業を体験した日です。初めての農作業、初めて着るつなぎ、履き慣れない長靴。少しワクワクした気持ちもありましたが、「力仕事で苦手な私が農業？」正直不安でした。それは、私にとって「農業」は「脳裏」というイメージが強かったからです。農業は、体力だけではなく頭も使う大変な作業だと思えます。ですが、半年間純情農園で農作業を行い農業に対する概念がガラリと変わりました。初日は防草シートを張るなど畑の手入れと、トウモロコシに葉をやりました。昨年の純情むすめの皆さんが大切に育ててくれたトマトが太陽と共にきらきらしていて、「しっかりとやらなきゃ」と思いました。8月になると、トウモロコシとスイカの収穫が始まりました。次々と蔓の下から出てくるスイカの量と暑さで体力の限界を感じました。9月は、枝豆にじんじんさつまいもを収穫し、枝豆を一つ一つ取る作業や、さつまいもを引っこ抜く作業は筋力と体力の必要性を感じました。11月・12月は、寒さも増してきて鍋料理にぴったりの白菜やキャベツを

収穫。どちらもうすつりとしていてトラックまで運ぶのに一苦労しました。半年間純情農園を行い、農業の大変さ・大切さを少しだけ体験できたことはこれからの私の人生できっと役に立つことであり、貴重な体験をさせていただいたと思います。そして、自分の手で確かめることの素晴らしさを学びました。私は、自分の手で農業を体験しなければ今もずっと「脳裏」というイメージが抜けなかったと思います。自分で育てた野菜は大切に、美味しく、その美味しさを誰かに伝えたくて、農家の皆さんもきつと同じ思いがあるからこそ、岩手の野菜はこんなに美味しいのだと実感しました。美味しい食べ物を育てることのできる環境、食べ物から感じる農家の皆さんの愛情すべてが岩手の誇りです。純情むすめとして活動し半年が経ちましたが、ここからが勝負です。純情農園で頭も心も成長できる本当の「農業」を学んだので農家の皆さんの思いを乗せて、これから私たちの笑顔をお届けしていきます。



JA全農いわての 純情人

趣味・特技

サッカー、買い物、サウナ、ラーメン

現在の担当業務

主に農業機械の受発注、在庫管理など

これからどんな職員になってみたいか

まだまだ知らないことが多く、上司だけではなくJAの方、メーカーの方に、お世話になっており、毎日が勉強です。早く一人前になり、信頼される職員になりたいと思います。



農機事業部
農業機械課
おうち しゅうえい
大内 修瑛さん

スポーツする子どもたちを食の面からサポート

1月7日(土)～9日(月)

・第40回JA全農いわて いわて純情米選手権・岩手県ミニバスケットボール交歓大会

米穀部は県内小学生を対象とした「第40回JA全農いわて いわて純情米選手権 岩手県ミニバスケットボール交歓大会」へ特別協賛し、出場選手全員に「銀河のしずく」を使用したおにぎりや県産牛乳、オリジナル缶バッジをプレゼントしました。

また、開会式で畠山俊彰県本部長は「今日皆さんに配られたおにぎりは『銀河のしずく』を使用しています。毎日朝ごはんを食べることで脳と体が発達するので、しっかり食べるようにしましょう。また、6年生はこの大会で最後の人も多いと思います。コートに立てることに感謝し、仲間との喜びや感動を忘れないで欲しいです」と話したほか、東日本大震災により被災された13チームへ、復興を祈願し、ボールを贈呈しました。

試合は、各チーム、正確なシュートや巧みなドリブルが飛び交うハイレベルな展開が繰り広げられました。男子は、高さを活かした岩谷堂ミニバスケットボールスポーツ少年団、女子は、素早い速攻で勝利を積み重ねた一関ミニバスケットボールスポーツ少年団が優勝。3月28日(火)～30日(木)に国立代々木競技場で行われる全国大会への出場権が与えられたほか、伊藤勝米穀部長から上位各4チームへ副賞として、盾と「銀河のしずく」を贈呈しました。入賞チームは以下の通りです。

■男子		■女子	
優勝	岩谷堂(奥州)	優勝	一関(一関)
準優勝	水沢みなみ(奥州)	準優勝	黒東(北上)
3位	湯本宮野目(花巻) 花巻(花巻)	3位	盛岡上田(盛岡紫波) まえさわ(奥州)



震災で被災されたチームへボールを贈呈する畠山県本部長



44対39の接戦を制した岩谷堂ミニバスケットボールスポーツ少年団

一年の好取り引き願う

1月10日(水)～12日(木)県南家畜市場 1月18日(水)～20日(金)中央家畜市場

県南・中央家畜市場初競り

11日～12日、県南家畜市場(奥州市江刺区)で、18～20には中央家畜市場(雫石)で、子牛(黒毛和種)の初競りを開催しました。一頭あたりの総平均価格はそれぞれ87万1329円(県南)、84万588円(中央)といずれも前年の初競りを上回りました。

競りに先立って行った初市式には繁殖・肥育農家やJA、行政担当者が出席。鏡開きの後、牛乳で乾杯、餅まきを行い、今年1年の好取り引きを祈願しました。18日は主催者を代表して小原俊英副本部長より「全国的に子牛の出荷頭数が少なく、相場が高い状況で、今後の相場展開が不透明ななか全農県本部は生産基盤を最重要課題とし、生産者、JAと一体となって和牛産地いわてを守っていきます。今年の干支、酉年は商売繁盛の意味があります。取り組みの成果が表れる年になれば」と挨拶しました。



競りにかけられる子牛(18日、中央家畜市場)



編集後記

1月、女優「のん」さんが、『純情産地いわて 宣伝本部長』として就任しました。今年の秋には、新品種米「金色の風」のデビューが控えており、多くのイベントで活躍が予想されます。本会ホームページやフェイスブックなどで都度、告知していきますので、近くで

開催される場合にはぜひ足を運んでみてください。ちなみに「金色の風」は盛岡市菜園にある「銀河食堂」にて、いち早く食べることができます。本県の最高級米を目指している「金色の風」をひと足お先に味わってみてはいかがでしょうか。(小野)

女優のん「純情産地いわて宣伝本部長」に就任!

1月16日(月)

のん「純情産地いわて宣伝本部長」就任記者発表会

JA全農いわては、純情産地いわてのイメージアップと本県農畜産物の販売促進を強化していくため、女優のんさん(本名:能年玲奈)を「純情産地いわて宣伝本部長」に任命しました。

同日盛岡市内で開いた就任式に、JA岩手県五連 藤尾東京会長や本会 畠山俊彰県本部長が出席。畠山県本部長がのんさんについて説明した後、「彼女のほのぼのとした雰囲気や岩手の農畜産物にぴったり。これから数ある品目をまんべんなく宣伝してほしいです」と今後の期待を語り、藤尾会長から委嘱状を手渡しました。

これを受けたのんさんは「岩手県は私の第二の故郷のようなもの。宣伝本部長のオファーをいただいたことはとても嬉しく思います。広い土地と寒暖差を活かした美味しい農畜産物を皆さんにPRしていきます」と意気込みました。

今後、純情産地いわてに関する各種イベントの参加、各品目ごとのポスターやローカル局でのテレビCM等への出演を予定しています。



「純情産地いわて宣伝本部長」への就任に笑顔を見せるのんさん

首都圏でのいわて牛消費拡大へ

1月16日(月)

平成28年度いわて牛の集い

いわて牛普及推進協議会と岩手県は、東京都のホテルにて、平成28年度いわて牛の集いを開催しました。東京食肉市場関係者や買参関係者、県内生産者など約250名が出席。会場では、いわて牛を使用した食事が振る舞われ、参加者全員で乾杯するなど、首都圏での更なるいわて牛の消費拡大へ向け一体となりました。

また、集いの中盤には、肉用牛や酪農に携わる「牛飼い女子」と一緒に、この日「純情産地いわて宣伝本部長」に就任した、女優のんさんが登場。真っ赤なつなぎ姿ののんさんは「今日、初めていわて牛を食べさせていただきました。口に入れるととろけて、何も味付けしなくてもとても美味しかったです」と感想を述べ、いわて牛をPRしました。

1月17日(火)

第27回「いわて牛」枝肉共励会

JA全農いわてといわて牛普及推進協議会、岩手県は東京都港区にある中央卸売市場食肉市場にて、第27回いわて牛枝肉共励会を開催しました。生産者の肥育技術の研鑽の場として、毎年1月に開催しているこの共励会。今回は60頭が上場し、平均枝肉重量は昨年より29kg増えたほか、A等級率が57頭と全体の95.0%を占めました。

これを受け、岩手県農林水産部 紺野由夫部長は「今回の共励会は生産者の努力が目に見える結果となりました。これからも生産者同士で研鑽しあい、いわて牛の産地として関係者全員で一体感を持ち、高品質なものを全国の消費者へアピールしていきましょう」と今後の意気込みを語りました。

その後行われた表彰式で、最優秀賞にはJA新いわて(八幡平市) 竹田直也さんの出品牛が輝きました。枝肉単価は3,222円と昨年の3,156円を上回り、公益社団法人日本食肉格付協会 関東支所 厚地政洋支店長は「サシがきめ細かく、脂肪の質も柔らかく、とても良い状態」と講評しました。入賞者はPO6「消費地便り」をご覧ください。



「牛飼い女子」と一緒に登場したのんさん



最優秀賞を獲得したJA新いわて竹田直也さんと純情むすめ



新生活へ羽ばたくあなたに、とびっきりうれしいこと。

- この春限定! JAバンクで新たに給与受取口座を指定すれば5,000円分のJAバンク特製QUOカードがもらえる!
- 手数料無料ATM台数は業界トップクラス! 平日日中の入出金手数料がコンビニATM(セブン銀行・イーネットATM・ローソンATM)でも無料! 新規口座、給与口座は、JAバンクへ!



JAバンク特製QUOカード5,000円分を応募者全員^{*}にプレゼント!

※応募の条件等は以下のとおりです。

- お申込期間: 平成29年2月1日～5月末日まで(当日消印有効)
- お申込方法: 専用の応募ハガキまたはJAバンクHPからお申込ください。
- 対象取引: 平成29年2月から6月に新たにJAバンクで給与受取口座を指定し、いずれかの月において5万円以上の給与のお受取りが確認できたお客さま。

- ・景品内容等については、予告なしに変更する場合や地域により異なる場合があります。
- ・昨年度に当企画の景品を受領されたお客さまは対象外となります。
- ・詳しくは、お取扱いのJA窓口までお問い合わせください。



**コンビニATMをはじめとして
提携ATMが全国で約
95,000^{※2}台!**

※1) 無料となるお取引はATM及び提携等によって異なります。 ※2) 平成28年3月末現在 (JAバンク調べ) ※3) 一部設置されていない店舗もございます。
※JAバンクのキャッシュカードをお持ちのお客さまは、JAバンクのATMによるご入金、ご出金、残高照会サービスは終日無料でご利用いただけます。稼働時間はATMにより異なります。また、ATM稼働時間であってもJAバンクのキャッシュカードによるお取引ができない場合がございます。詳しくはお近くのJAまたは、ご利用ATMの掲示等でご確認ください。三井住友銀行、三菱UFJ銀行、イーネットATM、ローソンATM、JAバンクATM、ゆうちょ銀行のATMでは、ご入金も無料と利用可能です。残高照会には時間にかかわらず無料でご利用いただけます。イーネットATMはファミリーマート等のコンビニエンスストアに設置されています。また、コンビニエンスストア(ファミリーマート、ローソン等)の一部の店舗においては、ATMが設置されていない場合、近隣提携ATMを設置している場合、他ATM連合会社のATMが設置されている場合がございます。
(平成29年1月末現在)



JA 新いわて / JA いわて中央 / JA いわて花巻 / JA 岩手ふるさと /
JA 江刺 / JA おおふなと / JA いわて平泉 / JA 岩手県信連

詳しくはお近くの JA 窓口までお問い合わせください。



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

